



管理会社様からのご質問にお答え致します。

番号	質問事項	回答
1	ディスポーザー処理槽の定期点検・維持管理について、全てのメーカーの処理槽に対応できますか。	日本下水道協会の適合評価合格品の維持管理については、全て対応しています。尚、各社独自開発の製品であり、臭気、汚泥管理も含んでおり、弊社独自の対策で難問題をクリアしています。維持管理業者の変更に際しては、各自自治体に変更届けを提出致します。
2	定期点検の維持管理で、放流水質が基準規定値を超えた場合は、どのように対応していますか。	維持管理は放流水質を守ることが第一義であり、そのために定期メンテナンスが義務づけられています。そこで基準値を守れないことを予知したら、素早く対策を施します。対策については、当該処理槽の状況で的確に判断致します。
3	各住戸ディスポーザーからの排水量・粉碎ゴミが設計値より増えて流入した場合はどのようになりますか。	ディスポーザーの排水量・粉碎生ゴミ量は、多い日もあれば少ない日もあるのが現実です。想定外が生じた場合でも処理槽に流入した生ゴミ排水は2日から3日掛けて処理されますので、処理槽内で平準化し安定して処理排水されます。また、当該ディスポーザー排水処理システムの計画流入負荷設定値は高く、排水量・粉碎ゴミの増大にも充分対応できる設計です。
4	定期点検での汚泥引き抜き時期の判定基準を教えてください。また、汚泥引き抜きは定期的に必要ですか。	汚泥の引き抜き基準については、30分SVが90%、60分SVが80%を超えた時点を目安と判断基準としています。但し、活性汚泥の性状により対応は異なり、沈降のし難い汚泥性状の場合は、沈降性の良い汚泥に変質することが求められます。固液分離槽をもつ処理槽で堆積汚泥が移流部を溢流する場合は、引き抜きの時期です。何が何でも定期的な引き抜きありきではありません。
5	余剰(引き抜き)汚泥は、一般廃棄物として行政指定処理場への持ち込み処理ですか？収集運搬は登録業者に限られますか？一般的な費用は如何ですか。	1都3県は、一般廃棄物として取り扱われます。収集運搬は登録業者です。費用は様々ですが、川崎市の1,700円/㎡は特別に安い料金として、10,000円/㎡～20,000円/㎡が相場です。業者によってはバキューム車の費用が別途に加算されることもあります。搬出の汚泥性状により産業廃棄物扱いのケースもあり要注意です。ご相談承ります。
6	維持管理で経年と共に留意すべき事項がありましたら教示下さい。	維持管理は下水道に放流する水質を遵守することが目的ですが、施設共有の居住者の立場に立てば施設を保守することも大事です。付属の機器は更新しなくても大丈夫か？開口蓋等の腐食は未然に防がれているか？臭気は大丈夫か、臭気は抑制することもできます。
7	全メーカーの設置したディスポーザー処理槽のリニューアルが可能ですか。	ディスポーザー処理槽に付帯する機器は、全て機器メーカーの汎用品であり、購入すること修理することが可能です。安心してお任せ下さい。適正価格で対応しています。
8	入居者専有部ディスポーザーの故障対応はできますか。	できます。ディスポーザー故障の緊急対応は、処理槽の緊急対応同様、365日・24時間行っています。ディスポーザーに精通した専門員が対応致します。ディスポーザーの更新については管理会社様の意向に沿っています。

水物語No7 ★★天の川★★★

天の川とは夜空を横切るように存在する雲状の光の帯のことです。東アジアの神話では夜空の光の帯を「川」と見えています。一方、ギリシャ神話ではこれを乳と見えています。この光の帯は地球を一周しており、恒星と共に日周運動をしています。現在では「天の川」「Milky Way」という言葉で、天球上の帯だけでなく、地球を含む星の集団、つまり天の川銀河を指すこともあるそうです。

♪見上げてごらん夜の星を……。流れ星が消える前に願い事を3回唱えると願が叶う、そんな言い伝えを信じるなら夏は願い事を叶えるのに適した季節です。日本では1970年(高度経済成長)以降は天の川を見ることが出来る場所は少なくなりました。天の川を見るには月明かりのない晴れた夜に、都市から離れた標高の高い場所に行くといわれています。天の川は一年中見ることが出来るが、天の川銀河の中心が夏の星座である「いて座」にあるため、夏の天の川は比較的光が強く確認しやすいそうです。

汚泥ゼロ・臭気ゼロ

ハイブリッドシステム推進中！

株式会社クリーンテックサービス

七夕伝説！

7月7日七夕の夜に天の川を隔てて輝く星は、彦星(牽牛星)と織姫(織女星)であり、1年に1度だけ会うことを許されたために、光り輝いている「遠距離恋愛の星」です。

昔々、天帝という神様が星空を支配していたころ、天の川の西の岸に、織女という天帝の娘が住んでおりました。織女は機織りが大変な手で、彼女が織った布は五色に輝き彩りを変える不思議な錦です。

一方、東の岸には牛飼いの青年、牽牛が住んでおりました。牽牛はよく牛の面倒をみる働きものでした。そんな二人は天帝の仲立ちで夫婦となりました。ところが一緒に暮らすようになると、2人は朝から晩までおしゃべりで、何時になっても仕事を始める様子がありません。業を煮やした天帝はとうとう2人を引き離し、1年に1度、7月7日の夜だけ会うことを許しました。

2人は、1年に1度会えるのを楽しみにお互いの仕事に励み、7月7日を指折り数えて、天の川の兩岸でまたたいて待っているのです。7月7日、今宵、2人が会えますように……！ちなみに2つの星の距離は14.4光年あります。仮に光速で駆け付けたとして14年掛るのです。

参考資料 : ウィキペディア フリー百科事典

